

令和3年度 南丹広域振興局 重点目標

	重点事項	成果目標
1	<p>京都丹波の地域資源を生かした交流・活力のまちづくりを進めます。</p>	<p><u>新型コロナウイルス感染拡大状況を踏まえ、感染症の拡大防止対策に取り組みつつ、新京都丹波ビジョン（南丹地域振興計画）の実現に向けた取組を、柔軟に推進します。</u></p> <p><u>京都丹波ブランドの普及や“京都丹波ファン”拡大に向け、「食」や「自然・歴史文化」、「スポーツ」等の地域の魅力を発信するとともに、体感できる取組を推進します。</u></p> <p>① 京都丹波ブランド強化・発信事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 京都市内の集客力の高い施設や府主催イベントへPRブースを出展するとともに、魅力発信サイトへの記事掲載を行うことで、地域外の方々に京都丹波の魅力を発信し、ブランドの強化、浸透を推進します。 <div style="text-align: right;"><目標：イベント来場者満足度 80%></div> ○ 周遊・滞在型観光推進に向け、生産者と料理人の連携を強化するとともに、料理人による創作料理を披露する「グルメの集い」を開催し、京都丹波ならではのいちおし食材の魅力を発信します。 <div style="text-align: right;"><目標：料理人が創作料理に取り入れるいちおし食材 10品目></div> <p>② 京都丹波ファン獲得事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ POSTコロナを見据え、家族連れ等をターゲットに、京都丹波の魅力である「食」や「スポーツ」等をテーマとしたウェルネス体感型の観光ツアーを、森の京都DMOと連携し実施します。 <div style="text-align: right;"><目標：ツアー 3コース、参加者 60人></div> ○ SNS（インスタグラム）を活用し、管内高校生等による若者視点での地域の魅力発信を促進することで、シビックプライドを持った地域住民の育成を図るとともに、多様な地域資源を活用した周遊型旅行商品の開発につなげ、賑わいづくりを推進します。 <div style="text-align: right;"><目標：協力校 5校></div> <p>③ 京都丹波サイクルツーリズム推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「京都スタジアムを中核とするスポーツ&ウェルネス構想」及び京都府自転車活用推進計画を着実に推進するため、次の取組を実施します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新設された京都丹波のサイクルコースを巡る、スマホを活用したスタンプラリーを開催し、自転

令和3年度 南丹広域振興局 重点目標

	重点事項	成果目標
		<p>車愛好者をはじめ広く府民に向け、京都丹波におけるサイクルツーリズムの魅力を発信します。 <目標：参加者 500人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サイクルコース近隣の飲食店や物販店等のおすすめ立ち寄りスポットを紹介するPR動画を制作し、魅力を発信することにより、交流人口の増加、商業・観光の振興を推進します。 <目標：動画制作本数：5本、動画アクセス数：2,000回、動画高評価獲得数：200>
2	<p>人権が尊重され、希望を持って元気に暮らせる地域づくりを進めます。</p>	<p><u>NPO等地域活動団体や障害者に対する支援など誰もが生き生きと暮らせる地域づくりや、京都丹波の豊かな自然環境やスポーツ資源を生かした健康づくりを推進します。</u></p> <p>① 地域活動促進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域内の次世代リーダーを対象に、地域課題の解決に必要な知識や経験を得るための研修・講座を、WEBも活用しながら開設することで、地域の今後を担う「地域リーダー」を発掘・育成します。 <目標：地域リーダー養成講座 2回、30人（R2：1回、25人）> <p>② 「ぬくもり京都丹波」製品プロジェクト事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 障害者の経済的自立を支援するため、通販等のコロナ禍に適したテーマの販売促進研修を開催するとともに、大型ショッピングモールにおいて販売会を開催することで、オリジナルブランド「ぬくもり京都丹波」商品の販売力を強化します。 <目標：販売促進研修 2回（R2：1回）> <p>③ 健康の森プロジェクト事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 減塩や低栄養予防に配慮した「なんたん・かんたん・やさい料理レシピ」の普及に取り組むことで、コロナ禍の外出自粛等で食生活が変化する中での、栄養バランスの良い食生活の実現を図ります。 ○ コロナ禍における運動不足の解消に向け、「森の京都を歩こう京都丹波健康ウォーキングマップ」の更新、「なんたん元気づくり体操」の普及に取り組むことで、運動習慣の定着を図ります。 ○ 施設退所者が安心して在宅療養に移行できるよう、栄養・食事情報の共有システムの円滑な運用と定着を推進するとともに、配食サービスリストを活用し、在宅療養者の「食」のサポートを促進します。

令和3年度 南丹広域振興局 重点目標

	重点事項	成果目標
3	<p>明日の京都丹波産業を担う人づくりに取り組みます。</p>	<p>地元企業等と連携した人材の確保・育成や産学公連携による企業活動への支援、農林畜産業の担い手育成や生産拡大を推進するとともに、京都丹波の食の魅力を発信します。</p> <p>① 未来を担う企業づくり推進事業</p> <p>○ 地元企業の人材確保のため、「京都丹波経営革新企業クラブ」において、子育てにやさしい職場づくりや多様な働き方、従業員満足度向上等をテーマとした研修会・情報交換会等を開催し、企業の取組を支援します。</p> <p style="padding-left: 40px;">＜目標：参加企業 40社（R2：36社）＞</p> <p style="padding-left: 40px;">＜目標：「京都丹波中小企業支援Aチーム」による管内企業訪問 250社（R2：226社）＞</p> <p>② 京都丹波そばの里魅力発信事業</p> <p>○ 京都丹波のそばを魅力ある観光コンテンツとして育成するため、そば情報の発信やそば粉加工品の開発により食の観光の誘客を推進し、地元でのそばの消費拡大を図ります。</p> <p>○ 担い手の減少や高齢化に対応するため、そばと稲WC Sとの二毛作やスマート農業技術導入の実証を行い、中山間地域における新たな振興作物となるそばの生産効率向上や作業負担軽減を目指します。</p> <p style="padding-left: 40px;">＜目標：新たなそば粉加工品の開発の取組 3件＞</p> <p style="padding-left: 40px;">＜目標：実証に参加する農業者及びそば生産を検討する農業者 15者＞</p> <p>③ 畜産担い手ランクアップ事業</p> <p>○ 農場HACCP認証（府内3番目）の指定に向けた講師派遣や研修会等の、関係団体等と連携した伴走支援を行うことで、畜産物の安全性確保と生産性向上を図ります。</p> <p style="padding-left: 40px;">＜目標：農場HACCP認証農場の新規指定 1件＞</p> <p style="padding-left: 40px;">＜目標：農場HACCP推進農場の新規指定 2件（R2：1件）＞</p>

令和3年度 南丹広域振興局 重点目標

	重点事項	成果目標
4	<p>オール京都丹波による移住・定住プロジェクトを推進します。</p>	<p>子育て環境日本一の京都丹波を実現する取組や、大都市に近く暮らしやすいという京都丹波の強みを生かした移住・定住施策を推進します。</p> <p>① 京都丹波子育て文化創造事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 企業主導型保育所や病児保育の整備など、子育てしながら住みやすい、働きやすい地域づくりが進むこの地域において、経済団体、子育て支援団体、行政機関等が連携し、子育て環境に関する課題の共有と対策の検討を行うとともに、子育てに関する地域サミットを開催することで、社会全体で子育てをあたたく見守り支える気運を醸成します。 ○ 管内の子育て支援団体のリーダー等を対象とした専門的な講座や、産前産後支援担当者が切れ目なく支援できるノウハウを身につけるための研修や会議を開催することで、子育て支援体制を強化します。 <p style="text-align: right;">＜目標：京都丹波地域子育て支援リーダー養成研修 3回（R2：3回）＞</p> <p style="text-align: right;">＜目標：産前産後ピアサポーター等研修・会議 2回（R2：1回）＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 就学前児童の支援を行う療育機関のリーダーを対象とした専門的な研修及び連携会議を開催することで、子どもの育ちの支援や保護者支援の充実を図ります。 <p style="text-align: right;">＜目標：研修・連携会議 4回（R2：4回）＞</p> <p>② 移住・定住促進による「地域の絆」創出事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Uターンを含む移住希望者に対し、京都丹波の魅力や、移住者の受入や子育て世代にやさしい職場づくりに取り組む地元企業情報をオンラインも活用し発信することで、就労や子育てなどの移住に伴う不安を解消し、移住者の増加を更に促進します。 <p style="text-align: right;">＜目標：移住セミナー、現地ツアー 12回、300人（R2：9回、136人）＞</p> <p style="text-align: right;">＜目標：移住者への就労機会提供や子育て支援に積極的に取り組む企業 累計44社（R2 34社）＞</p>

令和3年度 南丹広域振興局 重点目標

	重点事項	成果目標
5	<p>交流と安心・安全の基盤づくりを推進します。</p>	<p>地域の防災力の向上に向けた取組や野生鳥獣被害・家畜伝染病に対する備えの強化など、安心・安全な京都丹波づくりを推進します。</p> <p>① 道路整備の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広域道路網へのアクセス道路や地域基幹道路を整備します。 <ul style="list-style-type: none"> ・国道477号【西田大藪道路】、国道423号【法貴バイパス】、綾部宮島線【肱谷バイパス】等 ○ 市街地における都市計画道路を整備します。 <ul style="list-style-type: none"> ・並河亀岡停車場線 ○ 橋梁老朽化対策を実施します。 <ul style="list-style-type: none"> ・郷ノ口余部線【宇津根橋】 等 ○ 地域の生活を支える1.5車線の道路を整備します。 <ul style="list-style-type: none"> ・京丹波三和線【下山】等 <p>② 河川整備、土砂災害対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 河川流域全体を捉まえた総合治水対策を推進します。 <ul style="list-style-type: none"> ・桂川【亀岡工区】、七谷川、園部川、高屋川 等 ○ 土砂災害防止対策（砂防堰堤）を推進します。 <ul style="list-style-type: none"> ・大町谷川 等 <p>③ 農山村地域の安心づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 治山事業による荒廃した山地の復旧と土砂災害の未然防止を推進します。 <ul style="list-style-type: none"> <公共(国庫)治山事業> <ul style="list-style-type: none"> ※R3完了：亀岡市東本梅町大内大谷山、同市宮前町神前、同市本梅町中野岩ノ原、同市本梅町中野傍示ヶ谷、南丹市八木町氷所（5箇所） ※新規・継続：亀岡市曾我部町南条、同市本梅町平松西山、同市宮前町猪倉（3箇所） ○ 災害の未然防止のため、老朽化したため池等の改修を推進します。 <ul style="list-style-type: none"> <改修する防災重点農業用ため池> <ul style="list-style-type: none"> ※R3完了：段ノ池（亀岡市） ※新規・継続：昭和池（亀岡市）、廻り池（亀岡市・南丹市）、奥池・口池（口人）（南丹市）大保池（南丹市）、<u>奥池（池ノ内）（南丹市）</u>

令和3年度 南丹広域振興局 重点目標

	重点事項	成果目標
		<p>④ 災害に強いまちづくり事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大規模水害時に立ち退き避難を要する地区を対象に、市町が実施する研修会等の取組を推進し、避難行動タイムラインの作成を支援します。 <目標：避難行動タイムライン作成地域 29 地域（R2：5 地域）> <p>⑤ 野生鳥獣被害等への対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 野生鳥獣被害に遭っている集落に対し、鳥獣被害集落診断チームが市町や専門家とともに聞き取り調査を行い、診断カルテを作成することで、効果的な対策の実施を促進します。 ○ 特に対策が必要な集落に対し、鳥獣被害集落診断チームが地元住民と協働し、被害対策をモデル的に実践・実証し、成果を他の集落と共有することで、地域全体での野生鳥獣被害軽減を図ります。 <目標：診断対象集落 18 集落（R2：18 集落）> ○ 家畜伝染病（鳥インフル、豚熱等）の発生に備えるため、関係機関と連携し初動防疫等の実地訓練や各作業班長研修会等を実施するとともに、南丹版家畜伝染病等対策マニュアルを作成し、殺処分や焼・埋却処理等の実践作業の向上を図ります。